

日本共産党は、コロナ禍のもと国民の命と生活を守るため、一步でも二歩でも政治を前に動かすことに全力をあげてきました。通常国会での近畿選出国会議員・予定候補の奮闘を紹介します。

力あわせて 実現しました

- 「日本在住のすべての人に一律10万円」を支給する特別給付金の実現
- 雇用調整助成金の上限額を月16.7万円から月33万円に引き上げ
- 家賃支援の枠組みをつくらせた
- PCR検査センターの設置など検査体制を一步一步拡充
- まだ不十分だが医療機関支援の一定の増額

安倍政権のコロナ対策は、あらゆる問題で後手後手。共産党は世論と結び、節々で緊急対策を提案。また他の野党と力を合わせ、対策を前進させました。

大門みさし 参議院議員 持続化給付金 フリーランスにも

「従来の枠を超えた大規模な対策を一気に打ち出すべき」と要求。地域の実情に合わせて使える交付金を求め、安倍首相とも論戦。第1次補正で地方創生臨時交付金の実現し、2次補正で積み増しされました。また海外の先進事例を紹介し持続化給付金の実現。さらにフリーランスにも拡大をと繰り返し求め実現しました。



清水ただし 衆議院議員

中小業者の命とくらし、営業を守れと、安倍首相や麻生財務相らに求めた清水ただし議員。所得税と消費税の確定申告時期の延長、税や社会保険料の納付猶予が実現、資金繰り支援も拡大しています。「すべての人に定額給付金を」と求め、ホームレスの人への10万円給付へ道を開きました。

苦境の 中小業者救え



コロナ禍であえぐ中小業者への支援を安倍首相に迫る清水氏=2月28日、衆院財金委

こくた恵二 衆議院議員

運動と結び、野党共闘を画期的に深化・発展させたこくた恵二国会対策委員長。中小企業の家賃支援法の野党共同提案に続き、高等教育無償化プロジェクト「FREE京都」との懇談を受け、授業料半減を含む「学生支援法案」を共同提案。家賃補助、不十分ですが学生支援緊急給付金の実現しました。

共同リード 政府動かす



個人タクシーの協同組合から要望を聞くこくた氏(中央)=3月14日、京都市南区

こむら潤 比例近畿・尼崎市議

党兵庫新型コロナウイルス対策本部長として奔走。電話相談は約350件。休業するネットカフェ利用者の住居確保を尼崎市に求め、市は市営住宅の提供を始めました。企業主導型保育での登園自粛に伴う保育料減免が実現。教育では「子どもたちに心のケアと20人学級のプレゼントを」と訴えています。

子どもらに 少人数学級を



特別定額給付金の申請の相談活動をするこむら氏=5月30日、尼崎市

宮本たけし 前衆議院議員

在阪オーケストラやライブハウスなどを立て続けに訪問。早くから休業支援と公演再開支援などを働きかけました。現場からは「希望が持てる」と喜ばれ、文化芸術活動の継続、技能向上支援として要望の一部が実現しました。また文部科学委員としての経験を生かし、学費半減などを掲げた提言を発表。実現へ全力です。

文化まもれ 学費半減を



日本センチュリー交響楽団と懇談する宮本氏。右隣はたつみコータロー氏=3月26日、豊中市